

めざすのは、自動車事故ゼロの社会。

ナスバ自動車事故対策機構札幌主管支所 次長 吉田清敏 氏

消滅可能性都市からの脱却へ～商工会議所の取り組み～

登別商工会議所 会頭 木村義恭 氏



私は昨年還暦を迎えました。ロータリー歴はまだ4年目で右も左も分からぬ状況でここに立つことに恐縮しております。現職は学校法人登別立正学園の理事長であり、登別商工会議所の会頭を3期務めさせて頂いております。学校法人は、登別と白老で6つの保育施設と10の事業を行い、こども達は600名程・職員は150名程となっております。

登別の現状は、このように2023年の出生数は167名、30年ほど前のピーク時に比べると25%まで減っています。こども数で未来を予測することは誰もが容易に想像することが出来ると思います。直近10年の減少率の勢いでこどもが生まれなければ15年も経たずに出生数は0になります。特殊合計出生率は現状を維持するのに必要な2.08のほぼ半分1.05で北海道平均、全国平均よりも低い状況で、このまま何もしなければ町が無くなる、消滅可能性都市となることは紛れもない事実です。消滅可能性都市の要素は端的に子供が生まれなためであり、若年女性人口の減少と、地方から大都市圏への若者の流出が大きな要因。この脱却のために3つの柱と各種の取り組みをご紹介します。安心してこどもを生き育てられる環境は行政マターが強いので、会議所マターでは安心して生活を営むことが出来る環境を取り組んでおります(3つの柱はQRコードP.6～P.9をご参照)。若者の都会化志向は否めない事実です。何故ならば大都市に機能が集中するからです。東京一極集中を否定してもお金も情報も技術も集中する東京への移動を否定しても止めることは出来ません。私の仕事で言うと幼稚園教諭・保育士の養成学校は北海道の8割は札幌です。その為札幌に集中し18歳から20歳まで学校で学び奨学金制度を活用し5年間札幌で勤めると彼氏が出来、利便性の高い札幌から地方に戻ることは容易ではありません。しかしこのままでは消滅可能性都市になりますので、若者のワークライフバランスが重要であり、それを実現できるように経済界が可視化出来る取り組みが必要です。その為に登別

という地の利を活かしてDMCを設立します。具体的に動くこと、商品化のポイントは感動、確実に収益を上げることが重要です。登別ピーク時は400万人を超え、コロナ禍で落ち込みましたが現在は330万人まで回復し、お客様単価も上がっています。これを担任宿泊・お土産だけに留まらず、市内に潜在する心を動かす体験、物品、食事などを通じて市内全域、私はこれを全市観光と呼んでおりますが、外貨を稼ぎたいと思っております。330万人が1,000円更に消費して頂き、新たに事業の創出や設備投資、環境整備することで、3倍の売り上げをすると100億円近くに上ります。これを安心してこどもを生き育てる資源へと結び付けたいと考えています。安心して働き所得を得る環境のためには、既存の企業が活躍し続けなければなりません。多くの企業は人手不足です。あるホテルでは10か国以上の国から特定技能で働いています。

2月にミャンマーに行き15名の採用へ繋げてきました。現在会議所は無料職業紹介所の登録をしておりますが、今後有料職業紹介所として次年度には登録支援機関の設立をします。設立後は市内会員企業へ外国人材を紹介出来るように、また町内会・宅建協会と連携して空き家をリノベし、お節介なおじいちゃん・おばあちゃんが外国人材と触れ合い、ごみの出し方などの習慣やお祭りなどの文化などを伝え、排除では無く融合しながら、新たなまちを創っていく取り組みをします。この紹介業により管理費を毎月頂くことで、会議所職員の給与UPも図ってまいります。皆さんにお願いがあります。札幌には定山溪もありますが是非登別温泉にお越し頂き1泊とは言わず2泊3日の思い出作りをお願い致します。



■本日のロータリーソング

我等の生業

2024-2025 年度 国際ロータリーのテーマ

「ロータリーのマジック」

国際ロータリー会長：ステファニー A. アーチック

